

常陸国麻生藩

新庄家墓所

総寧寺(米原市寺倉)には、新庄駿河守正頼しんじょうするがのみ まさよりならびに正陳まさのぶなど、新庄氏一族の墓所があります。巨大な五輪塔ごりんとうがならび、総寧寺墓所の最上段に設けられています。新庄氏は、坂田郡新庄(米原市新庄)の国人で、京極氏の古くからの被官(家臣)である今井氏から出た一族です。新庄氏歴代の居城は箕浦荘の新庄城(新庄)ですが、浅井氏の命により、古代からの湖上交通の要港である朝妻湊あさつまなとに朝妻城を築き、その守護のために新庄直昌なおまさが入りました。その子直頼は浅井氏に属しましたが、後に織田信長に降り、豊臣秀吉の馬廻りうままわ(大将の警護役)となります。直頼は、関ヶ原の戦いで西軍に属し、伊賀上野城を落として領地を失いますが、慶長9年(1604)に常陸・下野両国内に三万三百石を与えられ、麻生(茨城県行方市麻生)に陣屋を構えました。麻生藩は、延宝4年(1676)に五代直矩なおのりに跡継ぎがなく断絶しますが、同年に一万石で復活し、以後、十五代、267年間移封されることなく続きました。

正頼は直頼の子で、天正7年(1579)に生まれました。駿河守を称し、父に従って、秀吉に仕え、のちに徳川家康に従って相伴衆しょうばんしゅうを勤めました(『改訂近江国坂田郡志』)。慶長17年(1612)に没し、「月海晟珊総寧寺殿」と号しました。直陳は、幕末の廃藩置県後、子爵となり大正2年(1913)に没し、総寧寺に葬られました。





朝妻城跡



中島神社扁額

朝妻城跡

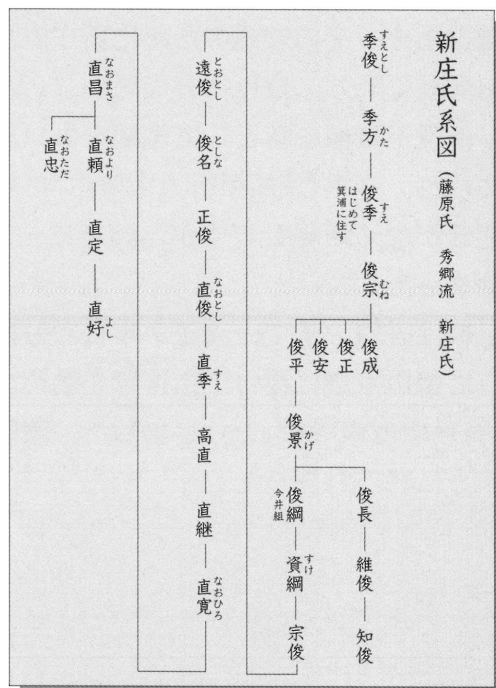
朝妻城跡は中島神社を中心にした一画に築かれていたと考えられています。現在城跡の痕跡は認められませんが、中島神社のある場所は小字「向蔵」で地元では「殿屋敷」とよばれており、近年まで南北200m、東西200mの水濠が巡っていました。いままも用水路として東と南面に残っています。中島神社の鳥居にかかる扁額は子爵新庄直陳の揮毫によるものです。



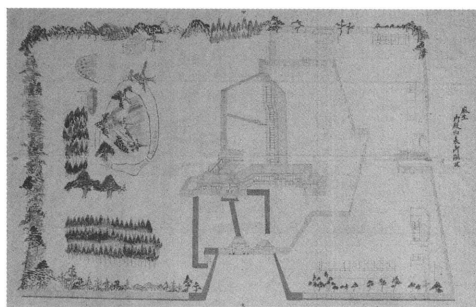
総寧寺



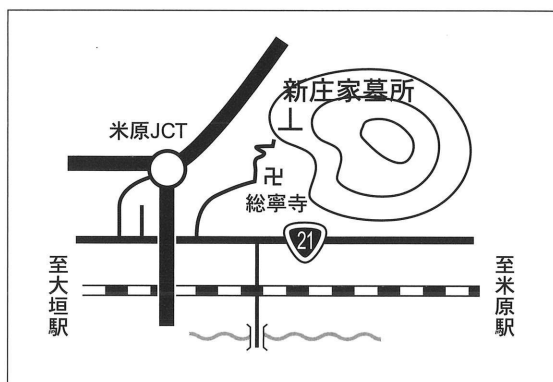
麻生藩家老屋敷 (行方市教育委員会提供)



新庄氏系図



麻生藩陣屋絵図 (行方市教育委員会提供)



新庄家墓所

- 所在地 滋賀県米原市寺倉
- アクセス JR東海道線米原駅下車。湖国バス醒ヶ井線「地域福祉センター」下車 徒歩約20分。

米原市教育委員会

〒521-0242 滋賀県米原市長岡1050-1
TEL.0749-55-8020 FAX.0749-55-4556

平成23年度 埋蔵文化財活用事業